令和3年9月10日(金)

“ふるさとちば”のための政策推進を

高橋秀典（たかはしひでのり）県議会リポート

発　行／自由民主党千葉県議会議員会　〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号　電話043(227)7411

銚子連絡道路、都市計画決定へ！

都市計画の手続きへ

旭市選出で県議1期目の高橋秀典(たかはし・ひでのり)県議は、熊谷俊人新知事が初めて編成した補正予算案を審議する6月定例県議会の一般質問に登壇しました。この中で、高橋県議は銚子連絡道路の早期事業化を要望し、熊谷知事に対し「知事の提唱する千葉経済圏の発展のためにも、1日も早い事業化を！」と強く迫りました。この結果、7月15日の千葉県都市計画審議会で銚子連絡道路の旭―匝瑳間13キロに関する都市計画変更が可決され、この区間が正式に都市計画決定されました。従って、銚子連絡道路は早期事業化へ向け大きく前進することになりました。高橋秀典県議の6月県議会での主な質疑を特集しました。

6月県議会に登壇した高橋県議

高橋議員　銚子連絡道路は圏央道に連絡し、農水産物の販路拡大、商工観光業などの地域経済の活性化を図るとともに、救急医療体制の強化や防災力の向上など、様々な効果が期待されていることから、1日も早い全線開通が求められています。

銚子連絡道路の匝瑳市から旭市間の取り組み状況はどうか。

熊谷知事　匝瑳市から旭市間については、昨年度までにルートや構造など具体的な道路計画がまとまったことから、現在、県において都市計画の手続きを進めているところです。

引き続き、地元市と連携しながら、早期事業化に向けて取り組んでまいります。

要望　知事の提唱する千葉経済圏の発展のためには、当地域の食糧供給基地としてのポテンシャルを活かすことが極めて重要であり、そのためには銚子連絡道路の早期完成は重要です。

関係市と連携して、横芝光町から匝瑳市までの区間の早期完成を図るとともに、旭市までの区間についても、ぜひ早期の事業化に取り組んでいただけるよう、強く要望します。

自転車道線の整備

高橋議員　県道飯岡九十九里自転車道線の利用環境の充実に向けた取り組み状況はどうか。

熊谷知事　県道飯岡九十九里自転車道線は、津波対策工事の実施に伴い、これまで通行止めとしてきましたが、今後、堆積土砂の撤去や堆砂対策として路面のかさ上げ、区画線の引き直しを行い、10月の通行再開を目指します。

この自転車道線を含む太平洋岸自転車道は、関係機関と連携し、デザインを統一したルート案内やサイクルステーションなどの利用環境を整備してきたことなどが評価され、ナショナルサイクルルートに指定されたところです。

ICT指導員の配置で提言

熊谷知事　匝瑳市から旭市間については、昨年度までにルートや構造など具体的な道路計画がまとまったことから、現在、県において都市計画の手続きを進めているところです。

引き続き、地元市と連携しながら、早期事業化に向けて取り組んでまいります。

要望　ICT支援員を教育現場の実情に応じて配置の拡充を行うことや、自治体の財政力により格差が生じないよう、国に対して強く要望していただきたい。

ICT学習環境状況

高橋議員　公立小中学校におけるICT学習環境について伺います。各自治体のICT支援員の配置状況はどうか。また、ICT支援員の拡充及び継続に向けて、県教育委員会は、どのように取り組んでいくのか。

冨塚教育長　県教委では、県内すべての市町村を対象に、5月末時点における小中学校へのICT支援員の配置状況を調査しました。

その結果、約4割の自治体で国の目標である4校に1名以上の配置がなされていましたが、約3割の自治体では財政的な理由等から、1人も配置されていないことが分かりました。

健康観察アプリ導入

高橋議員　今後の感染症対策に資するため「健康観察アプリ」等の導入を検討すべきと思うがどうか。

保健医療担当部長　国においては、医療機関や高齢者施設等の従業者に、軽度であっても症状が現れた場合、迅速に検査を実施できるよう、抗原簡易キットを配付することとしています。また、それ以外の職場でも、抗原簡易キット等を購入して、こうした検査を実施するよう促しているところです。

健康観察アプリは、このような迅速な検査を実施するに当たり、毎日の健康状態を把握し、効率的に検査対象者を特定するための方法として例示がされているものです。県としては、健康観察アプリの活用を含む検査等の実施手順をお知らせしているところです。

地域しごとNAVI

高橋県議　就職情報サイトの充実について伺います。

UIJターンの希望者が、適切な求人情報を得られるよう「千葉県地域しごとNAVI」の内容充実とサイトの周知に取り組むべきと思うがどうか。

商工労働部長　内容充実に向けては、関係市や地域の経済団体等と連携して、企業訪問等による掲載企業の掘り起こしを行うとともに、実際にUターン就職した方の体験談を掲載するなど、より実用的な内容となるように努めてまいります。

また、より多くの方に本サイトを知ってもらえるよう、さまざまな媒体を活用した周知・広報活動を行っており、今年度は若者層に対してインターネット広告を集中的に行っています。

●県政と旭市に関するご意見をお寄せください。

高橋秀典 県議 事務所
〒289-2516 旭市ロ-1551-4
TEL.0479-62-6896　FAX.0479-62-6897
Eメール.mail:keimeikan@gmail.com

地域の農業振興で集中質疑

農地バンクの有効活用を進言

担い手とマッチング

高橋議員　千葉県農業の持続的発展のためには、農地をしっかりと生かし、担い手に繋いでいくためのマッチングが不可欠です。そのために農地バンクがあるわけですが、その取り組みの現状が気になるところです。

　農地中間管理機構によるマッチングを推進するため、どのように取り組んでいるのか。

農林水産部長　県では、担い手への農地集積により、農業経営を効率的に進めるため、農地中間管理機構を介した農地の貸借を進めており、令和2年度末時点で5100ヘクタールの貸し付けが行われているところです。

　機構による農地のマッチングを推進するためには、担い手を求める、耕作条件の良い、まとまりのある農地を貸借できるよう、地域の合意を得ることが重要になります。

　このため県では、機構における情報収集体制の強化を図るとともに、市町村や農業委員会等と連携して、地域の話し合いを促進しているところです。

要望　**現状では、農地を求める担い手が効率的に農地を探せる仕組みが、十分に整っていないように思われます。農地集積を進めるために、農地の場所や状況などのデータを関係者で共有できるような仕組みを整備するよう要望します。**

　農地の集積に当たり、非効率な農地が置き去りとなって、耕作放棄地となっている現状もあります。ぜひ小規模農家の実情に寄り添った支援を強くお願いします。

廃プラスチック処理

高橋議員　農業用廃プラスチックの処理対策について、農業におけるプラスチック排出量の削減に取り組むべきと思うがどうか

農林水産部長　農業用ハウスに使用するプラスチックについては、近年、耐用年数の長い被覆資材が多数開発されており、その活用が生産者のハウス張り替えの負担軽減だけでなく、排出量の削減に繋がることが期待できます。

　そのため県では、ハウスの新設やリフォームに対して補助する際に、5年以上使用できる被覆資材の活用を促進しているところです。

　また、畑で使用するマルチフィルムについては、分解し土に還えるものなど、環境負荷が少ない資材も商品化されています。

　こうした資材の有効性を評価しながら活用を促進することにより、農業用廃プラスチックの排出量削減に向けて取り組んでまいります。

要望　**プラスチックの排出量削減という観点からも、耐用年数の長いビニールハウス用のフィルムに加え、生分解性マルチについても支援措置を設けるよう要望します。**

農業科生徒の就農率

高橋議員　農業の担い手不足の問題など、農業を実践的に学ぶことのできる農業高校の可能性には大きな期待を持つものです。ぜひ、農業に対する本気度の高い生徒の皆さんに、旭農業高校や公立高校農業科に集まっていただきたいと期待するものであります。

　そこで伺います。県立農業高校及び農業科の生徒の就農状況はどうか。また就農者を増やすための取り組みとして、どのような取り組みを行っているのか。

農林水産部長　県立高校の農業科設置校は11校あり、昨年度の農業科卒業生799名のうち15名が就農しています。

　就農者を増やすための取り組みとして、県立農業高校等と行政機関や農業法人等関係団体により設置している「アグリサポーターズちば」において、県内各地のJAと連携した「将来の就農に向けたインターンシップ」の実施に向け、現在準備を進めています。

要望　**一般就職はもちろん、農業法人への就職や農業系大学への進学の道を開くための高校として、ぜひ農業高校及び農業科の活性化を図るよう、次期県立学校改革推進プランにおいて検討してほしい。**

議場の自席で答弁に耳を傾ける高橋県議

家畜埋却地の確保

高橋議員　家畜伝染病発生時に備えた埋却地の確保に向けた今後の取り組みはどうか。

農林水産部長　昨年度の高病原性鳥インフルエンザの発生では、殺処分した鶏などの汚染物品の処理に時間を要したところであり、埋却地を事前に確保しておくことが必要です。

　さらに、豚については個体が大きく焼却処分が困難となるため、埋却地の確保がより重要となります。

　このため県では、全養鶏・養豚農場に対し、農場の規模に見合った面積の確保や、直ちに埋却が可能な状況であるか等について、巡回指導を強化してまいります。

要望　**埋却地の実態について早急に把握し、実効性のあるものにしていく必要があります。その上で、現状の規模を維持するための埋却地の確保が困難となるケースもあると思われるので、農家の実情に寄り添った支援をお願いしたい。**

畜産農家の臭気対策

高橋議員　畜産に伴う臭気対策について、県としてどのような取り組みを行っているのか。

農林水産部長　県ではこれまで、周辺環境に配慮した畜産経営を推進するため、畜産農家が実施する臭気対策に必要な設備の導入に対し支援してきたところであり、直近5年間では5農場に対し、補助を実施してきました。

　また、平成30年度から畜産業が盛んな旭市と連携して、養豚場での効果的な臭気対策を進めており、脱臭効果のある飼料添加剤の投与、浄化槽の密閉化、風向きを考慮した堆肥化処理などの組み合わせにより、臭気の低減効果が認められたところです。

　今年度は、農場の外に出ていく臭気をコントロールするため、防風ネットを敷地の境界などに設置し、臭気の緩和効果を検証する予定であり、引き続き畜産農家や市町村と連携して、臭気対策に取り組んでいきます。

要望　**畜産を次世代へとつなぎ、持続させていくためには、住環境との共生は地域にとっても大きな課題ですので、現在の取り組みを強化していただくようお願いします。**

堆肥利用の循環型農業

高橋議員　堆肥利用による循環型農業の推進について伺います。

　県内における畜産堆肥の利用促進について、県の取り組みはどうか。

農林水産部長　堆肥の利用を進めるためには、良質な堆肥を生産する取り組みを支援し、野菜農家等にその情報や利用方法を積極的に発信することが重要だと考えています。

　このため県では、畜産農家が流通に適した良質な堆肥を生産するための設備や、堆肥を農地に散布するために必要な機械の導入に対し、支援を行ってきました。引き続き、畜産堆肥の広域での流通なども検討してまいります。

要望　**広域化に当たっては、輸送経費などの課題はあると思いますが、千葉県堆肥利用促進ネットワークの活用を層推進するなど、畜産堆肥の利用を促進して、広域での循環型農業の実現が図られるよう、県としての取り組みを要望します。**